

みどりひと



みどりの新聞 平成18年9月30日 発行 No.137

連載

すぎなみの
街路樹

高円寺門前

ひやくじつこう
百日紅のみち
(高南中央通り)

地名・駅名にもなっている宿鳳山高円寺(曹洞宗)、その門前南側から東の環状七号までの高円寺南中央通りに、区内では数少ないサルスベリの街路樹があります。

サルスベリは百日紅(ひやくじつこう)ともいわれ、夏真っ盛りの八月頃枝先に、径三センチ位の花が多数咲きます。花色も何種類もあり、この通りには白とピンクが交互に植えられ、たまに濃いピンクや紫がかかったピンクのものも見られます。

(サルスベリについては三面「緑の歳時記」に詳細あり)



七年程前に道路

が整備される際に、

地元の方々に話し

合い、他地域の街

路樹の視察などを

された結果、夏の

高円寺阿波踊りの

際にも美しく花を

咲かせ、百日紅の

名の通り、蕾が次々

と開き長期間花が楽しめるということでサルスベリを選

定されたそうです。

整備当初から地元の高円寺南中央通り商店会の方々が

管理をされており、現在は、すぎなみ美・道路組*」に

登録され、街路樹の根元には季節を彩るさまざまな花も

植えられています。

街路樹の通りの三十メートル程南側には、ほぼ平行し

て桃園川緑道も整備されていますので、年間を通じて散

策を楽しめそうです。



炎天の地上花あり

百日紅

虚子

*すぎなみ美・道路組:地域の住民が、道路や河川通路等の「里親」になって管理し、区がその活動を支援するシステム作りを推進する制度です。地域の共有財産である道路や植栽帯等を、区と住民の協働によって維持し、地域に愛され、親しまれる施設とすることを目的としています。



シクラメンの育て方

買い求めたシクラメンを毎年咲かせたいものです。

開花株の上手な買い方

- 葉数が多く株が固くしまったもの
- つぼみの数の多いもの
- 葉の茎の太いもの
- 病気がないもの

春までの管理

日光浴とリズムをつけた水遣りが大事。

シクラメンは凍らない程度の寒さは平気で、室内で昼夜の温度差(10位)の少ない場所に置く。日中はできるだけガラス越しの日があたるようにする。

水遣りは、3～4日に一回位の間隔が適当です。ただし冬は生育する時期ではないので、水をやり過ぎないように。また、葉の上からかけたり、根球をぬらしたりしないように鉢土に丁寧に与える。

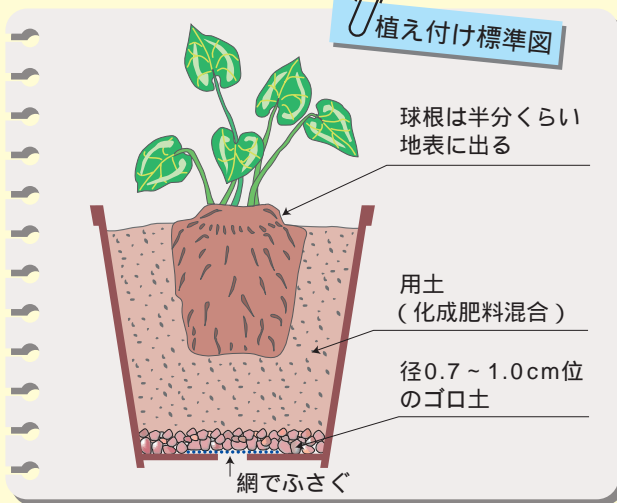
咲き終わった花、黄ばんだ葉などは元からねじるように抜きとる。

球根を休眠させない夏越しの方法

開花後も水遣りを続け、新葉を茂らせながら夏越しする。

雨が当たらず風通しのよい涼しい戸外、特にテラスやベランダ、北側の軒下などに置き、強い日差しをスダレなどで防いでやる。低い台や棚の上に置くとよい。

病気にかかかせないようにベンレート1,500倍液かダイセン600倍液などの殺菌剤を月に1～2回散布する。



鉢土が乾いたら水をやる。水の変わりに薄い液肥も与えれば熟成も保てる。

植え替え

球根自体が成長するので、毎年植え替えるのが良い。

時期は8月下旬(25日過ぎ)から9月上旬(10日頃)まで。

作業は球根を鉢から抜き、竹べらなどで根鉢の周りと底部をくずし、3分の2位の大きさにする。鉢は一回り大きいものがよく、用土は赤玉土に腐葉土、ピートモスを多めに混ぜ、それに乾燥牛糞、または緩効性の化成肥料を用土1リットルあたり3gほど混ぜる。球根は鉢土の表面から半分以上出るように植え、球根の頂部にかかからないようにたっぷり水をやる。植替え後10日間位は雨にあたらぬ明るい場所に置き、その後少しずつ日に当てる。

緑に関する専門相談は塚山公園みどりの相談所

☎ 3302-9387 (毎週土・日曜日)

編集後記 「みどりとひと」は「みどりのボランティア杉並」と協働で編集しています。

新聞の編集の用で公園を歩いていたら銀杏の若い実が落ちていました。137号が出る頃は実も完熟していることでしょう。(青) 素晴らしい日本の秋、実りの秋、散策の秋、そして秋の夜長は読書、よりもパソコンが友達かな。(中)

9月になって、アメリカシロヒトリ大発生。異常気象のせいでしょうか。環境博覧会のために、緑のカーテンづくりを頑張っている方々、成功を祈っています。(松)

今年の夏は天候不順だったようで、昨年に比べれば木の実が少ないようです。それでもミンミンゼミ、ツクツクボウシ、アブラゼミがにぎやかに鳴いて、そろそろ秋風も吹き、どんな秋の花が咲くか心待ちにしている今日この頃です。(山) 暖かい人の手によって1本の立派な黒松が残った、よかった。(吉)

みどりの新聞 137号 平成18年9月30日発行

編集 / みどりのボランティア杉並

編集・発行 / 杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。

みどりのカーテン

暑いと言って冷房を入れる暮らしが、地球温暖化の原因の一つであるとされ、環境に負荷の少ない暮らしが見直されています。

打ち水、すだれ、縁台、夕涼み、窓辺のアサガオに暑さをやり過ごす知恵、それが日本の暮らしの風情でした。今でも、アサガオやフウセンカズラで窓辺の日陰を得ている住まいを見ます。

これは植物で作った“みどりのカーテン”です。つる性の植物で造ったカーテンは、視覚にやさしく、人の心にうるおいを与えながら、日差しをやわらげます。室温や体感温度を下げるというデータもあります。冷暖房温度を1℃変えると、一世帯、年間31kgの二酸化炭素削減の効果があり、これは成木5本の炭酸ガスの吸収量に匹敵するといわれています。室温を下げる“みどりのカーテン”は、一石二鳥にも三鳥にも効果があるということです。

和田小学校では、大きな“みどりのカーテン”を教室の窓にかけました。5月初旬に植えたヘチマ、キュウリ、ゴーヤは、8月には3階の屋上に至り、気持ちのよい環境を創っています。区内では、他にも小学校5校が“みどりのカーテン”作りをしています。

10月14・15日に高井戸地域区民センターで行われる環境博覧会すぎなみにはエネルギーハウスが設置され、外壁を“みどりのカーテン”で覆います。事例を見て認識を深めてもらいたいと、現在みどりのボランティア杉並が、カーテンの生地作りをしています。会場へ直接植え込み出来ないので可動式にするため苦労したり、博覧会まで植物が持つかどうかと心配しながら、来年の夏には、区内のあちこちでみどりのカーテンが見られることを期待して毎日頑張っています。

緑の歳時記



若い枝ほど
稜がはっきりしている



サルスベリ

ミソハギ科

中国南部原産で、日本には江戸時代以前に渡来し、庭木や街路樹としてよく植えられる落葉小高木です。

高さは3～9メートルになり、樹皮は薄くはげ落ち、幹はすべすべしています。葉は長さ3～8センチの卵形、または楕円形の全縁で小枝は角ばっています。

7～9月、枝先に直径3～4センチの花が円錐形に群がってつきます。花の色は紅紫色と白が主ですが、園芸種には淡桃、濃桃、紅、など八重咲きもあります。

和名の由来は樹肌がなめらかで木登りの上手なサルも滑り落ちることからきています。また、花期が長く、百日にわたりつぎつぎに咲くので別名に“百日紅”（ヒャクジッコウ）と付けました。

区内では1面の高円寺の街路樹の他、阿佐ヶ谷駅北口、蚕糸の森公園で見ることができます。



和田小学校のみどりのカーテン

みどり探訪

街道を見続けた千歳の黒松

杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。



杉並区役所から青梅街道を東に少し行った所、苅田商店のビルの脇に立派なクロマツがあります。そのクロマツの歴史や由来をお店の方に伺いました。

樹齢は400年位で、文献によると、茶屋があり、裏にクロマツとお稲荷さんがあったそうです。このマツは盆栽マツだという言い伝えがあり、2002年の店舗の建て替えの時に移植をしようと掘ったところ、実際に大木にあるはずの直根*がなく、盆栽の特長である太い側根*がはっていたそうです。現在も風情のある姿をしています。

苅田さんの代だけで、台風がきて大きな枝が折れたことなど、3回の危機があったそうです。クロマツが危機を乗り越えられたのも、水野さんという匠の技を持った造園家との出会いがあったこそだとおっしゃっていました。「夜に、マツが光って見える」という通りがかりの人の不思議な話も伺いました。「どうすれば黒マツにとってよいのかを考えている」という愛情あることばを聞き、青梅街道に面した決して条件の良いところではない場所で、400年も生き続けられた奇跡がわかったような気がしました。

*直根：まっすぐ下に伸びる根

*側根：まっすぐ下に伸びるための根から枝分かれして出ている根